

芦屋川の改修と芦屋遊園地

精道村は、住宅地を築くに際して、水害対策のために芦屋川の改修工事を実施しました。工事は大正橋を境に2回に分けて行われ、大正橋以南の第1次芦屋川改修工事を大正4～5年（1915～1916）に、以北の第2次改修工事を昭和4～5年（1929～1930）に実施しました。改修工事では、擁壁を設けて川幅を狭め、兩岸に新たな造成地がつくられ、芦屋川の姿は大きく変わりました。そして、東岸にできた造成地には芦屋遊園地（芦屋公園）を整備し（15ページ）、西岸には大邸宅が建てられていきました。

このように整備された芦屋川ですが、昭和9年（1934）の室戸台風と昭和13年（1938）の阪神大水害では、大きな被害を受けました（22ページ）。阪神大水害の復興にあたっては、昭和14年（1939）から昭和21年（1946）にかけて、国が芦屋川の改修工事を実施しました。

第2次芦屋川改修工事前の月若橋付近

（絵葉書：大正撮影）

河原の兩岸には松林が連なる。奥に見える木造の橋はベコベコ橋（別名、どんどん橋）で、後に架け替えられて月若橋となった。



第1次芦屋川改修工事後の鶴塚橋付近

（絵葉書：大正13年〔1924〕～昭和初期撮影）

第1次改修工事によって、芦屋川の兩岸には石積みの擁壁が、河床には石積みの落差が設けられている。第1次芦屋川改修工事に伴い大正6年（1917）に新設された鶴塚橋が写っている。



第2次芦屋川改修工事後の開森橋付近

（絵葉書：昭和5年〔1930〕撮影）

開森橋から上流側を撮影した写真。兩岸に築かれたばかりの擁壁の石積みが美しい。奥には昭和13年（1938）の阪神大水害で流失した今はなき城山橋が写っている。



開園した頃の芦屋遊園地（絵葉書：明治40年代撮影。カラー化）

開園時の芦屋遊園地には、精道村による飲食店舗（あづま屋）2棟、夜間照明用の街灯（石油ランプ）25基、便所4ヶ所等と、阪神電鉄の寄付による休息所店舗8棟、ベンチ、ブランコ4台、円木運動器1台、木馬1台等が設けられた。

第1次芦屋川河川改修工事後の芦屋遊園地（芦屋公園）

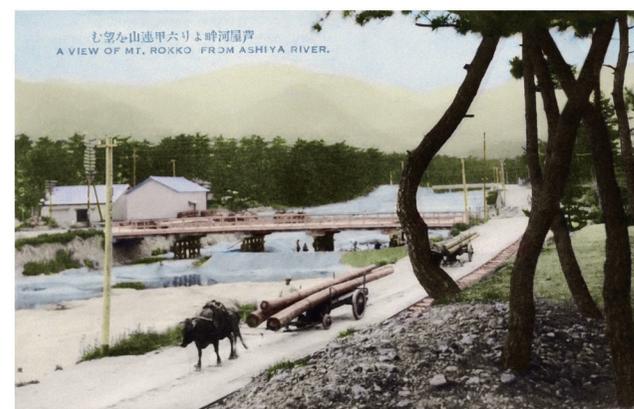
（絵葉書：昭和初期発行）

芦屋遊園地は、第1次芦屋川改修工事に伴い再整備され、大正6年（1917）に芦屋公園としてリニューアルした。



コラム 古典文学にちなんだ芦屋川の橋の名前

芦屋川に架かる橋の名前は、芦屋ゆかりの古典文学に由来するものが多くあります。具体的には、上流から月若橋、業平橋（大正6年〔1917〕）、公光橋（大正4年〔1915〕）、鶴塚橋（大正6年〔1917〕）で、これらの内、月若橋以外はすべて第1次芦屋川改修工事（大正4～5年〔1915～1916〕）で新設されたもので、月若橋も当初は「ベコベコ橋」等と呼ばれていたことから、これら文学に由来する橋名は、大正初め頃に付けられたと考えられます。



木造の初代業平橋（絵葉書：大正13～14年〔1924～1925〕撮影。カラー化）

なお、昭和19年（1944）の町名改正により生まれた「月若町」「業平町」「公光町」の町名は、橋名が由来となっています。